

**夏期職場体験プログラム
(インターンシップ)を開催**



【木曽森林管理署】

七月三十一日から八月三日まで、当署管内の国有林及び民間の木材市場等において、長野県林業大学の学生五名を対象にした職場体験プログラムを開催しました。

盛夏を迎えた中で熱中症や雷雨を気にしながらの実習でしたが、当署ならではの奥深い天然木曾ヒノキ林などの森林、太陽の照り返しが強い土場、事務室など、職員が勤務する多様な職場環境も見てもらいながら、林野行政や当署の特徴、関連する事業に対する理解を深めてもらうことを目的として実施しました。

体験プログラムは、森林官の仕事（木材供給の丸太生産・立木の量を調べる収穫調査）、山見（森林の踏査）、丸太の仕分けと販売、赤沢自然休養林での体験林業、林道や山腹崩壊地での復旧調査、若手職員との交流など幅広い内容でした。



国有林の図面を見ながら場所を確認する学生たち

学生からは、「事務仕事が多いイメージをもっていましたが、実際は職員の足で各種調査などを行っていることが分かった」「森林整備は下見をして入念な計画を立ててから行うなど、作業の安全は重要」「思っていた以上にホワイトな職場」などの感想が寄せられました。限られた時間でしたが、今回の体験で見せてくれた実直な姿から、将来の林業・土木関係への就業に結び付くことを期待しています。

**広葉樹二次林の施業上の
取扱いに関する検討会を開催**



【計画課、北信森林管理署】

八月二十二日、下高井郡木島平村のカヤの平高原周辺及び上水内郡信濃町の黒姫山国有林において、「広葉樹二次林の施業上の取扱いに関する検討会」を開催しました。

本検討会は、中部森林管理局管内の広葉樹二次林における施業の必要性、施業を必要とする場合の留意すべき事項や伐採木利用の可能性等について、有識者の意見を伺い、適切な取扱いを検討すべく、本年度の新たな取組として設置したもので、四月に第一回の検討会を会議形式にて行いました。

第二回となる今回は、カラマツ人工林内に広葉樹が侵入し、針広混交林となっている林分や、過去の薪炭利用等により伐採したミズナラが萌芽更新したと思われる天然生林など、北信署管内の特徴的な広葉樹二次林の林況を確認し、森林の公益的機能の発揮、広葉樹材の活用など多岐にわたる観点か



様々なタイプの広葉樹二次林を確認の様子
(写真は伐採後に天然更新した林分)

ら、施業の要否や方法等について検討を行いました。委員の方々からは、「それぞれタイプの異なる多様な広葉樹林を見ることができて大変有意義だった」「施業により得られたデータの蓄積と共有を期待する」「施業にあたっては、生物多様性の観点も十分考慮して行うべき」など、様々なご意見をいただきました。今後、他の国有林においても現地検討を行いながら、引き続き、広葉樹二次林の施業上の取扱いについて、検討を進めてまいります。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【木曾森林管理署】

開田森林事務所

森林官 土屋 幸治

開田森林事務所は、長野県西部に位置する御嶽山の北東部、



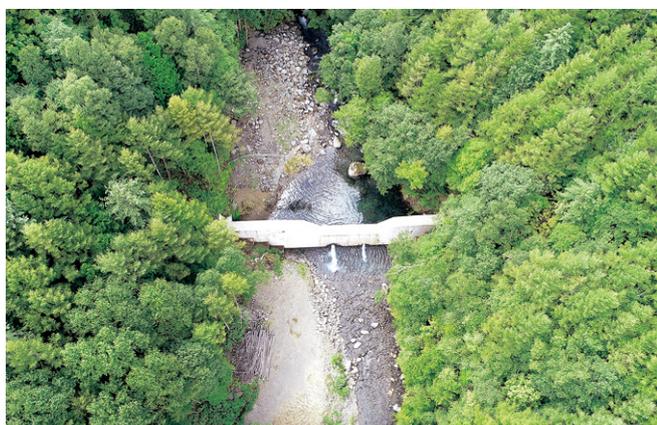
晩秋のマイアスキー場とカラマツ林

「木曾馬とそばの里」として知られる木曾町開田高原の国有林を管理しており、管内にはマイアスキー場があります。

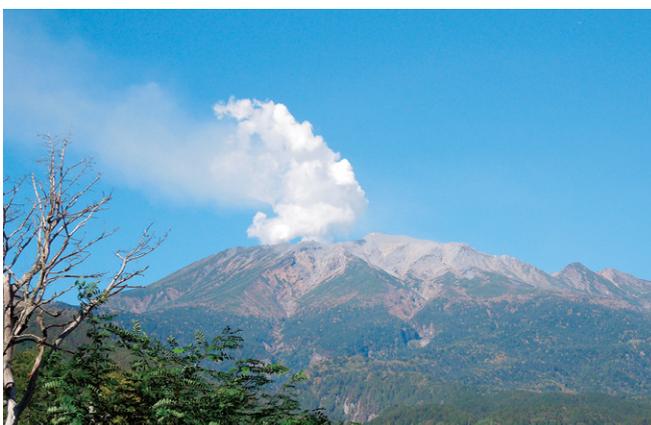
管轄するのは西野北山・小梨ヶ洞・末川・新高の各国有林で、面積は併せて約五、二七三ヘクタ、森林の面積割合は「人工林」と「天然林」がほぼ半々となっています。

人工林の約八〇割がカラマツ林で、その九九割は植えてから三十年を超え、資源としての利用が期待できます。生長して過密となった人工林では間伐作業を行っています。

当事務所の業務は、間伐作業の監督、ドローンによる境界確認、貸付地の見回りのほか、平成二十六年の御嶽山噴火に代表される自然災害の発生箇所の確認やニホンジカの森林被害防止を目的とした生息調査なども行っています。



新高国有林の治山施設



噴火10日後の御嶽山（平成26年）

なお、自然災害発生箇所では、治山工事等を行い、森林機能の回復に努めています。

■未来の担い手へのメッセージ
カラマツを植えてから伐採するまで五十〜百年程度の時間が必要です。

当事務所のカラマツ人工林の約七〇割は、植えてから六十年ほどですが、伐採にはもう少し時間が必要です。

先輩から引き継ぎ、生長したカラマツ人工林を、私たちから引き継いでいただける「あなた」をお待ちしています。



ドローンによる境界確認中の筆者

《シリーズ「私の森語り」》

シリーズ

「私の森語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「森林から考えるモノづくり」



株式会社オークヴィレッジ
緑の国企画実行委員長
森林たくみ塾塾長
小本曾賢一

■自己紹介

一九九一年、木工塾・森林たくみ塾入塾。二〇〇二年、株式会社たくみ塾に入社し、二〇二〇年、塾長を拝命。二〇一八年より、オークヴィレッジ株式会社制作部を兼任。「森と暮らしをつなげる」をテーマに、森や地方の持つ可能性を引き出すのがライフワーク。

■活動内容

「お椀から建物まで」「百年かかって育った木は、百年使えるものに」「子ども一人、ドングリ一粒」



パルプや燃料にしてしまうには勿体ない宝の山

という二つの理念を事業の礎として、私たちは活動してきました。この八月にオークヴィレッジ株式会社が出来五〇周年を迎えることができましたのも、私たちの活動に共感して支えていただいた皆さまのおかげです。創業以来、私たちは国産広葉樹の活用にごこだわったモノづくりをしてきましたが、用材として市場に出るのは一割に足りません。大

半はパルプやバイオマス燃料となってしまう現状を打開しようと、この十年は、地方の林業事業者と連携した未利用材の活用に取り組んでいます。

小径木や曲がり材など規格外広葉樹の活用プロジェクト・Neo Woods（岐阜県本巣市もとすしの有限会社根尾開発、岐阜県高山市たかやましの株式会社カネモクとの協働で行っている）を皮切りに、連携協定を結ぶ群馬県みなかみ町とは、伐り出した広葉樹をほぼ全量買い取ることで、自伐林業家の経営の安定化にも寄与しています。他にも、新たな取り組みが、目下進行中です。



小径木のみなかみ材を随所に用いたMori:to（モリート（mori+hitto））チェア

また、カーボンニュートラルの二〇二四年度達成を目指して、社有林の面積の拡大を進めています。現在一〇鈔ある社有林では、当社の会員組織である「シルヴァ

自社林のコナラで作った
ドングリカードスタンド



曲がった木も、
枝葉までをも余すことなく活用
を目指したい
のです。

■メッセージ

森林から考えるモノづくり。その先に見据えるのは、木の文化を中心に据えた循環型社会の実現です。

百年までの折り返し地点に立つ私たちの、これからの取り組みにも、ぜひ注目してください。

○連絡先

オークヴィレッジ株式会社
岐阜県高山市清見町牧ヶ洞

846

電話／0577-6812244

https://oakv.co.jp



奥美濃最高峰に広がる高齡級のブナ群落

能郷白山ブナ生物群集保護林

設定目的

能郷白山（二、六一七メートル）周辺には、ブナを主体とし、サワグルミやトチノキ、亜高山性植物が混生している高齡級の天然林が分布しています。

これらの希少な天然生のブナ群落を有する森林の保護・管理を一体的に行っています。

地況・林況

能郷白山は、岐阜・福井県境に跨がる奥美濃の最高峰です。当保護林は、山頂から温見峠（ぬくみとうげ）に至る稜線より岐阜県側の北東斜面、及び根尾西谷川（ねおにしたにがわ）を挟んだ南斜面に位置しており、総じて急傾斜地となっています。日本海型の気候の影響を強く受けており、岐阜県でも代表的な多雨・豪雪地帯です。

シリーズ

中部の保護林(第29回)

所在地
岐阜県本巣市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第29回

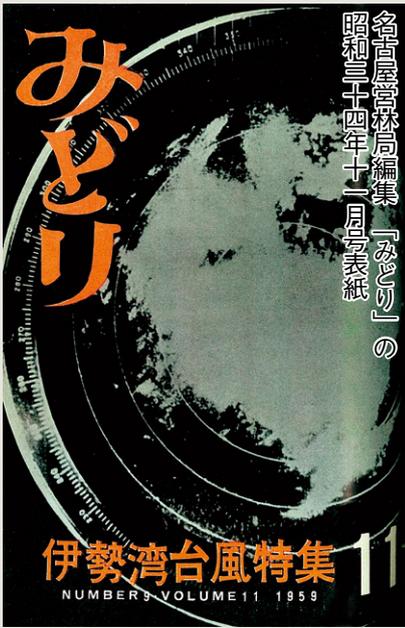
中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「伊勢湾台風」その一

歴史的な大災害とされるものの中でも、昭和三十四年九月のいわゆる「伊勢湾台風」(台風十五号)は中部地方では特に大きな影響があったものとして記憶されています。特に愛知県、三重県での被害が甚大でした。激しい暴風雨に加え、台風が伊勢湾の満潮時と重なったため高潮が発生し、大きな浸水被害が発生することになりました。



高潮で木材が散乱した白鳥貯木場 (名古屋市熱田区)



被災した職員を尋ねて浸水地域に行く営林局救護班

当時、名古屋営林局庁舎が置かれていた名古屋市も災害の直撃を受け、通信・交通機関が満足に機能しない状況となります。名古屋営林局では災害応急対策本部を設置し、被害状況の把握に努める情報連絡班、台風通過後に出局不能となった百人を超える職員の情報を探る救護班、破損・浸水した宿舎を手当てる応急復旧班の三班からなる体制で、災害からの復旧にねばり強く取り組むこととなりました。



路体が流失した森林軌道 (現在の愛知森林管理事務所・段戸)



長野県内で発生した風倒木被害 (現在の中信森林管理署・奈良井)

また、愛知県・岐阜県・長野県内の各国有林においても大雨による営林署庁舎・宿舎・施設の破損・崩壊、林道や森林鉄道・軌道の路線の流失、土砂崩れや強風による大規模な風倒木被害が発生するなど、この伊勢湾台風の影響は後々まで続く大きなものになりました。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。





作品名：「芸術的なハイ積みの技術、トラック運材で運ばれる僅かな間しか見ることができない、素材が有機的かつ緻密に積み上げられることでみせる、木口の織りなす模様美しい」



作品名：「ヒノキ100年、僕21年」



作品名：「林業楽しい！」



作品名：「登山道整備ボランティア」

Good Wood Workers

フォトコン作品からもっと伝えたい林業の魅力！

また、当社では日頃から作業風景を撮影し、活躍する姿を仲間や家族に見てもらったり、企業説明で使用したりしています。「林業楽しい！」は、昨年撮影した約二千枚

最優秀賞をいただいた「ヒノキ百年、僕二十一年」は、あれほどの木を入社二年目の社員に伐採させることは、まずありませんが、できると信じ、経験のために伐らせました。遠くに見える集落や春の山とのコントラストも良かったと思います。

姿を撮影した一枚です。コンテスト共催の名古屋造林素材生産事業協会の方から声をかけていただいたのが応募のきっかけなのですが、年に一度、協会の方々と国有林内でボランティア活動をしており、「登山道整備ボランティア」は、力を合わせて活動する

みなさんの

作品のことを教えてください！

昨年度の「中部の森林 林業従事者写真コンテスト(フォトコン)」において、最優秀賞と優秀賞三作品を受賞された有限会社大原林産の西社長と岡田さんに作品のことや今年度の事業について取材させていただきましたのでご紹介します。

今年度の

現場について教えてください！

の中から選びました。「芸術的なハイ積み」を見せる最年長のベテランから若手まで、安全確保を第一に、力を合わせて日々の業務に励んでいます。

現場について教えてください！高山市清見町一ツ梨国有林において、製品生産の請負事業をしています。約四千立法の立木を伐採し、搬出する計画となっており、伐採・造林一貫作業であるため、皆伐後には地拵を行います。国有林での作業は、土地所有者が国のみで、森林官の指導もあり、やりやすいです。

◆有限会社大原林産のご紹介◆
「緑を守り 水を作る」を社是に一年を通じて素材生産を中心とした事業を行っています。社員六名の平均年齢は約四十歳、様々な資格を取得しています。また、随時インターンシップを受け入れるなど、林業技術の継承にも取り組んでいます。

取材協力/有限会社大原林産
所在地/郡上市八幡町五町3-2-14
電話/0575-67-1241

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jp まで電子メールでお送りください。)

7月22日、東京交通会館で開催された長野県最大級の移住フェア「信州で暮らす、働くフェア2023」において、フォトコン作品を展示するなど、ご活用いただきました！

また、今月号の林野庁情報誌「林野」において、フォトコンの取組と作品が紹介されます！

これからも多くの方にフォトコン作品をご覧いただき、森林、林業への関心と理解を深めていただきたいと思います！



(写真提供：長野県)



昨年10月、大原林産の作業風景を飛騨署の職員が撮影したものです。どこの現場でも木材を仕分けて美しく積み上げる作業をしていただいています。